

課題解決型高度医療人材養成プログラム 選定事業の概要と推進委員会からの主なコメント

〔 取組２〕 看護師・薬剤師等のメディカルスタッフを対象とした事業
（２）指導力を有し地域医療で活躍できる薬剤師の養成 〕

		整理番号	2 1
申請担当大学名	昭和大学		
事業名	大学と地域で育てるホームファーマシスト		
事業責任者	薬学部長 山元 俊憲		
事業の概要			
<p>在宅チーム医療で活躍するホームファーマシストに求められる、思いを受容し支える力（患者と家族のナラティブを受け入れ、支えるコミュニケーション、医療ヒューマニズム）、チームでの問題発見・解決能力（多職種が連携・共同し、最善の治療・ケアを立案・実践する能力）、在宅医療実践力（QOL・ADL を評価・支援する、多職種が共有すべき専門的な技能）の修得を目的に、医系総合大学の特色を生かし、段階的、体系的な学部連携・大学地域連携教育カリキュラムを構築する。全学部と地域の医療機関・組織等と連携して在宅医療教育支援室を新設し、低学年から学部連携型の多様な体験実習、PBL チュートリアル、シミュレーション演習・実習で、在宅チーム医療に必要な基本的能力を醸成し、高学年での参加型の在宅チーム医療実習でホームファーマシストを育成する。また、在宅チーム医療教育に活用できる多機能シミュレーター、学習用 DVD や IT システムを開発する。</p>			
推進委員会からの主なコメント			
：優れた点等、			
：充実に要する点等			
<p>薬剤師の臨床判断学を進め、在宅の場での軽医療や疾病のケアにおいて、ホームファーマシストという新たなカテゴリーをつくり、医師と連携できるようにしていくことは、医療資源としての薬局・薬剤師の活用、職能拡大が期待され、医師との連携においても信頼関係を構築されやすくなると思われる。</p> <p>NBM (Narrative based medicine) を教育するという新規性のあるプログラムとして評価できる。都市型と地方型の住宅について両方を実習できる点も他にはあまりない取組であり独創性がある。これまでの実績は十分である。</p> <p>ナラティブ支援コミュニケーションなど教育に活用できる多機能シミュレーターや学習用DVD、ITシステムは幅広く活用もでき、評価される。</p> <p>在宅チーム医療を実践できる薬剤師の養成が学年ごとに段階的かつ体系的に計画されている。</p> <p>医学・歯学・保健医療（看護・理学療法）と学部横断的な連携で教育体制が構築され、必要な人員が手当てされている。</p> <p>教育プログラムを実施する範囲が広域にわたるので、病院、薬局等との連携体制を適切に整備する必要がある。</p> <p>市場にあるOTC薬、サプリメント、医療器具などの正確な知識を団体や業界と連携して十分活用できる教育が必要と思われる。また、医師会とセルフメディケーションにおける共通の考え方、認識をどのように確保していくか課題がある。</p> <p>地域が広範囲であり担当者の負担は大きい。実施する際の関係者の連携を図る役割を担う住宅医療教育支援室の充実が必要と考える。</p> <p>評価体制に外部評価者を入れるべきと考える。また、在宅は充実しているがプライマリケアの項目が不足していると思われるので考慮されたい。</p>			
留意事項			
<ul style="list-style-type: none"> ・指導薬剤師プログラムをどのように行うか、もう少し明確化する必要がある。 ・事業管理における工程表の作成に当たっては、実施地域（地区）における医師会・薬剤師会との連携についても盛り込むこと。 			